

陸送協会ニュース

第181号

2022年3月

編集・発行者

一般社団法人日本陸送協会事務局

東京都新宿区新宿 1-11-15

電話 03-3356-3977 / 7922



令和3年度通常総会開催される

令和4年2月17日(木)に品川プリンスホテルメインタワーに於いて全国から57会員の皆様に出席いただき、令和3年度通常総会が開催されました。今年の総会は昨年同様オンラインによるライブ中継も実施しました。

1 開会の辞 寺門専務理事

令和3年度通常総会開会の辞

2 会長挨拶 北村会長



北村会長

皆さん、こんにちは。全国36の都道府県に、まん延防止等重点措置が継続されている中、一般社団法人日本陸送協会通常総会にご出席を賜り誠にありがとうございます。

会員各社に置かれましては、感染予防のために、出席を自粛された方も多数いらつしやることから、本日はYouTubeを通じて、全国にライブ配信すると共に、総会終了後の懇親会は中止とさせて頂きました。皆様のご理解と協力を、宜しくお願いいたします。

開会にあたりまして、本日はコロナ禍における、世の中の変化と陸送業界を取り巻く環境を考察しながら、今後協会として取り組む必要のある領域について私なりの視

点でのお話をしたいと思います。

まず始めに、コロナとの闘いも3年目を迎えました。昨年の我が国の状況を振り返ってみると、年明け早々から9月末まで、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が繰り返される状況でありました。

その中で、一年延期となっていた2020東京オリンピック・パラリンピックは、無観客での異例の開催となりました。開催については紆余曲折があったものの、選手や大会関係者の感染も抑制され、大きな混乱もなく閉会し、閉塞感が蔓延していたコロナ禍の中で、感動と興奮を与えてくれたイベントになったのではないかと思います。

しかしながら、お盆明けには変異をしたデルタ株の猛威により、第5波が発生し、治療が必要な人々が自宅待機を強いられるなど、医療崩壊の現実を目のあたりにする状況となりました。

10月に入り、ワクチン接種率が急速に上昇し、マスクの着用、マメな手洗いと消毒、そして換気や3密の回避といった基本的な感染予防の継続により、状況は落ち着きを取り戻し、日本政府は緊急事態宣言、まん延防止等重点措置を全面的に解除し、自粛の内容を段階的に緩和していきました。一方、欧米では感染力の高いオミクロン株への変異が発生し、我が国でも、新年早々オミクロン株の猛威が始まり、政府はまん延防止等重点措置を再度発出し、現在も継続しております。

このような状況の中、陸送協会の活動も大きく制限を受けました。本年は、3回目のワクチン接種や飲み薬の普及等によって、今までのパンデミック下における「コロナ

との闘い」からインフルエンザのようなエンデミックへの移行を想定し、「コロナと正しく向き合い、共生していく」ことによる新しい日常へとシフトをさせ、陸送協会の活動も推進していく年にしたいと考えております。本年の活動計画については、後ほど総会の議事の中で、具体的に報告させて頂き、ご審議をお願いしたいと思います。

さて、昨年の国内の自動車市場を振り返ってみると、1月～12月暦年の国内新車総市場は、3年連続して前年割れの44万8千台となり、東日本大震災のあった2011年以来の450万台割れとなりました。特筆すべきことは、上半期と下半期で大きく状況が変わったことあります。

1～6月の上半期は24万5千台、前年対比で111.6%とコロナからの回復の兆しが見られましたが、7～12月の下半期は、世界的な半導体の供給不足に加えて、アセアン諸国のコロナ感染拡大による都市封鎖・ロックダウンの影響で自動車部品の供給が滞り、各メーカーは、大規模な減産を余儀なくされた結果、前年対比83.0%の19万8千台まで落ち込む結果となりました。長引く新車生産の減産は、下取り車の減少を招き、中古車の発生量を激減させる結果となり、流通量の不足と共に鉄スクラップや触媒相場の高騰を受け、年式や走行距離を問わず中古車の流通価格は、一気に高騰し中古車の登録台数は、372万8千台と1978年の統計以来最低の水準となりました。

一方、コロナ禍により、公共交通機関の利用からクルマで移動するというクルマ本来の必要性が改めて見直され、需要自体は堅調に推移し各販売会社は大量な受

注残・バックオーダーを抱えております。2008年のリーマンショックや2011年の東日本大震災からの復興とは異なり、オミクロン株の収束により新車生産が回復に向かえば、クルマの流通量が自然に増加してくるようになります。

我々、陸送業者が、運べなければ、自動車産業の回復には繋がらないわけであり、納車待ち望んでいる多くのお客様に対して、確実にオクルマをお届けするために、我々は今まで以上に安全に配慮して、一つ一つの輸送を完遂していかなければなりません。

会員各社の皆様におかれましては、引き続き感染予防を徹底して頂き、自動車産業が、日本経済の回復を牽引し、陸送業界がその一翼を担っていることに対して、自信と誇りを持ち、安全と安心と共に、オクルマをお届けして頂きたいと思っております。

この一年間、ポストコロナ社会に向かって、新しい日常を生み出すニューノーマル、脱炭素を目指すグリーン化、そして電子化やシステム化を推進するデジタル化へのスピードが早まっております。

本日はこの点について、今後我々が取り組んでいかなければならない方向性について、触れてみたいと思います。

まず、新しい日常を生み出すニューノーマルについてですが、現在ポストコロナに向けての新しい働き方、新しいワークスタイルが模索され、時間や場所にとらわれない働き方、更には、職務や待遇を細かく定めるジョブ型雇用などの動きが見られます。我々陸送業界の過酷な労働環境や乗務員不足と高齢化という長年の課題が改善されていない中で、2024年に迫る、ドライ

バーの総労働時間の削減に向けて、チャレンジをしていかなければなりません。

現在、トラックドライバーの年間の拘束時間の上限は3516時間です。この拘束時間そのものを短縮する検討も行われているようですが、現在の働き方改革関連法は、時間外労働を年間960時間以内、すなわち、月平均80時間以内に短縮するというものであります。会員各社で相違があると思いますが、現状から概ね10～20%程度、輸送能力が低下する計算となります。

このグラフは、ドライバーの拘束時間を作業ごとに分類してみたものです。ドライバーが公道を走っている時間は、全体の約半分程度となっており、法律で定められた休憩時間、始業・終業点呼、機材の点検や給油、洗車の時間等を除くと、拘束時間の約1/3はクルマの積み込み、積み降ろし時間、積み込むためのスタンバイ作業、中古車であればオークション会場からのクルマの引き出し、傷チェック等々の付帯作業時間や待機時間となります。乗務員の労働時間を削減していくためには、こうした付帯作業を分業するような体制に、変えていく必要があるのではないのでしょうか？

分業体制で発生する追加のコストについては、輸送の効率化だけではカバーできない部分について、お客様にも一定のご負担をお願いすることに対して、ご理解を頂かなければなりません。

陸送業界としての課題は、電気自動車・EV車のキャリアカー輸送のあり方、そしてキャリアカーそのものの電動化となります。EV車のキャリアカー輸送の課題は、EV車の重量問題になります。現在の一軸のセミトレーラーは、最大9～10トン程度までの積載が可能であり、国産のエンジン車であれば、5～6台の積載が可能であります。EV車になると国産車で2トン程度、欧州車では2.5トン程度の重量となるので、現在の一軸のセミトレーラーでは3～4台しか運べなくなります。セミトレーラーを二軸にすることで、積載重量を増加させることは可能ですが、現在の国交省の許可している高速道路の料金体系では、通行料金が1.6倍に跳ね上がるようになります。

2024年問題に加えて、EV車の普及によって、輸送効率が更に悪化し、輸送コストが上昇することが懸念されます。EV車をどのようにしてキャリアカーで運べば良いのか？電欠時の対応や充電施設の持ち方など、EV車のキャリアカー輸送の課題を行政や自動車業界で共有化していかなければならないと思います。

現在、小型トラックのEV化、特に、コンビニなどの個配用に、中国製の小型トラックの導入が話題になっております。一方で、大型トラックの電動化の方向性が見えてくるには、未だ3～5年必要と言われていると見られます。電気なのか水素なのか、或いはハイブリッドなのか？今後の機材がどういう方向に進化していくのか？会員各社にとっては、かなりの設備投資が必要になてくるので、トラック協会と歩調を合わせて、国交省に対して電動化に伴う補助金

制度や減税制度などを、要請していかねばなりません。そして、電子化やシステム化を推進するデジタル化についてですが、現在、国交省は特車通行許可申請の簡素化に向けて、本年4月からの導入を目指して、通行可能経路のデジタル化を進めております。

更には、車検証の電子化や高速道路のETC専用化などの準備も進めております。

陸送協会としては、グリーン化やデジタル化に対して、異論はなく、積極的に推進していく立場であります。我々の作業が増加したり、積載乗務員や自走員に負荷がかかるとするならば、2024年に迫る、乗務職の時間外労働時間の削減活動に、大きなブレーキをかけることになり、是正を求めていかねばなりません。

このように、ニューノーマル、グリーン化、デジタル化についての課題は山積しておりますが、今後、支部役員の皆さんとの意見交換、本部理事会での議論を通じて、行政や自動車諸団体との連携を強化していきたいと考えております。

最後になりますが、現在、事業規模や事業内容を問わず、ESGやSDGsの活動に注目が集まっております。会員各社には、それぞれ固有の取り組み方があると思います。共通していることは、「安全と安心」です。我々は、公道を職場としていることから、安全の確立と輸送秩序の確立が最重要活動であり、今後も陸送協会の基本方針に変わりありません。そして、気候変動への影響を軽減するためのカーボンニュートラルに対して、陸送業界に求められる期待は大きくなってくると思います。我々が出来ることは何か？を考えた場合、電気や水

素によるトラックの電動化に加えて、いかに、空車区間を少なくする輸送体制を構築できるか？ということかもしれません。

本年は、コロナ禍の閉塞感から脱皮し、コロナと正しく向き合い、共生しながら、2024年問題、グリーン化、デジタル化に向けた諸課題に対して、会員各社の皆様と、意見交換を進めたいという思いをお伝えし、ご挨拶とさせていただきます。

ご清聴、ありがとうございました。

3 議長選出 北村会長

北村会長に議長の選出が一任され、定款第15条の規定により石田副会長が議長に選出された。



石田副会長

4 開会宣言及び議事録署名人の指名

(1) 議長から定款第18条1項の規定で定める総会の定足数について、会員総数705会員（うち正会員511会員）、本日の出席者57会員（うち正会員50会員）、委任状提出者341会員で、正会員出席者数、委任状提出者数の合計が391会員となり、正会員総数の過半数を超え、総会が成立する旨報告があった。

(2) 定款第19条2項の定めにより議事録

署名人に磯部芳治理事及び柴崎康男理事が指名され承認された。



柴崎理事（左）、磯部理事（右）

5 議案審議

第1号議案

(1) 令和3年度事業報告
資料に基づき寺門専務理事より下記の事業活動並びに組織運営の報告がなされた。

I 事業活動

1. 「令和3年度日本陸送協会短・中期活動計画」に基づく活動推進
- ① 「教育・認定制度」の推進
- ② 陸送事業者の実態把握と関係先への理解活動
- 1) 陸送事業概況調査
- 2) 積載車路上積み降ろし作業問題の解決
- 3) 自走車に対する高速料金割引適用に向けた取り組み
- ③ 支部活動の支援・充実

- ④ 交通事故抑止、環境保全に関する機器等の導入
- ⑤ コンプライアンス体制の確立
2. 渉外・広報活動の推進
3. 安全の確立
4. 輸送機器、輸送システムの改良等の推進
5. 会員数及び陸送事業の統計（実態調査による）

II 組織運営

1. 本部総会及び支部総会の実施報告
2. 理事会の実施報告
3. 正副会長会議及び委員会等の実施報告
- (2) 令和3年度決算報告
続いて、寺門専務理事より令和3年度決算について、収支計算書、貸借対照表、正味財産増減計画書等の報告並びに令和3年度決算書（1月1日～12月31日）についての報告があった。
- (3) 令和3年度会計監査報告
細谷監事より会計監査を令和4年1月25日（火）実施した結果、本協会の業務及び財産の状況並びに事業報告及び決算について、適切に処理されている旨報告があった。



細谷監事

議長は、第1号議案の議決について諮ったところ、令和3年度事業報告、令和3年度決算報告、会計監査報告は原案通り満場異議なく承認された旨報告。

第 2 号 議案

(1) 役員の一部改選

議長は、役員の一部改選が行われる旨報告。

退任理事 3 名を紹介

- ・ 近藤 利樹 理事
- ・ 寺門 巳知男 理事
- ・ 三浦 麗子 理事

(2) 新役員紹介

新任理事 3 名を紹介

- ・ 勝谷 友彦 理事
- ・ 佐藤 研一 理事
- ・ 杉田 忠敬 理事

議長より、理事・監事候補者名簿（案）の承認について諮ったところ、異議無く原案通り承認される。



佐藤専務理事

第 3 号 議案

(1) 令和 4 年度事業計画（案）

資料に基づき佐藤専務理事より説明があり、事業の遂行に当たっては、各支部と共に行政・関係団体との一層緊密な連携を図り、引き続き業界が抱える様々な課題解決に努めていくため、「安全の確立」、「輸送秩序の確立」、「経営環境の改善」など各々の事項を積極的に推進していく旨の説明があった。

(2) 令和 4 年度収支予算（案）

資料に基づき佐藤専務理事より説明があった。

議長は、第 3 号議案の令和 4 年度事業計画（案）、令和 4 年度収支予算（案）についての議決について諮ったところ、満場異議なく原案通り承認された。

議長は、以上をもって本総会提出議案のすべてを審議頂き原案通り可決したことを報告し、全会員の協力に感謝して降壇した。

6 退任役員 寺門理事への感謝状・記念品授与

近藤理事、三浦理事は欠席のため別途感謝状・記念品を送付



7 閉会のことは 佐藤専務理事

令和 3 年度通常総会の終了宣言

本部だより

令和 4 年 1 月正副会長会議

日時 令和 4 年 1 月 17 日（月）

14 時 30 分～15 時 10 分

場所 東京都トラック総合会館

6 階会議室

議事（審議事項）

1. 令和 3 年度通常総会について

① 令和 3 年度事業報告及び決算報告

② 令和 4 年度事業計画及び収支予算

③ 役員の変更について

④ 令和 3 年度通常総会の議事進行等について

2. 令和 4 年日本陸送協会 短・中期活動計画について

3. 日本陸送協会の会員の入退会について
4. 令和 4 年度行事予定について
各事項について承認された。

令和 4 年 1 月定例理事会

日時 令和 4 年 1 月 17 日（月）

15 時 20 分～17 時

場所 東京都トラック総合会館

6 階会議室

議事

1. 令和 3 年度通常総会について

① 令和 3 年度事業報告及び決算報告

② 令和 4 年度事業計画及び収支予算

③ 役員の変更について



正副会長会議



定例理事会

- ④ 令和3年度通常総会について
 2. 令和4年度日本陸送協会 短・中期活動計画について
 3. 日本陸送協会の会員の入退会について
 4. 令和4年度行事予定について
 5. 支部報告について
- 各事項について承認された。

令和4年2月臨時理事会

日時 令和4年2月17日（木）
14時30分～15時10分
場所 品川プリンスホテル
メインタワー3階（りんどろ）

- 議事
1. 令和3年度通常総会の議事次第他について
 2. 役員の変更について
 3. 会費徴収規定の特別会員の変更について
 4. 日本陸送協会の会員の入退会について
 5. 令和4年度行事予定について

北海道支部

令和3年度 北海道支部通常総会

開催日 令和4年3月1日（火）
会場 （一社）日本陸送協会北海道支部事務局

新型コロナウイルス感染症の観点により、書面決議で執り行う総会が、舟橋支

6. 令和4年度日本陸送協会 短・中期活動計画について
 - ・日本陸送協会 部会・委員会のワーキングからの報告
- 各事項審議後承認された。



臨時理事会

支部だより



部長、支部役員、事務局長出席のもと開催された。令和3年度事業報告、決算報告、会計監査報告、令和4年度事業計画、収支予算案、役員改選案が提案され承認された。

優良従事者本部表彰式は、コロナ感染症の収束状況を見ながら、後日に延期の予定。

四国支部

令和3年度 四国支部通常総会

開催日 令和4年2月4日（金）

支部総会は書面決議で執り行う形態で行い、令和3年度事業報告、決算報告、会計監査報告、令和4年度事業計画、収支予算案、役員改選案が提案され承認された。

優良従事者本部表彰式は中止。

九州支部

令和3年度 九州支部通常総会

開催日 令和4年3月4日（金）

書面決議で執り行う総会を行い、令和3年度事業報告、決算報告、会計監査報告、令和4年度事業計画、収支予算案が提案され承認された。

優良従事者本部表彰式は中止。

教育・認定制度

関東支部

「教育・認定制度」自走ドライバー教育

開催日 令和4年2月11日（金）

会場 神奈川県川崎市幸区堀川町580

ソリッドスクエア西館1階会議室

出席者 支部役員 事務局

トレーナー 4名、補助2名

受講者 4名

◆受講者の声

・今回の講習で得た基本作業を社内で開催し輸送品質向上に活かしていきます。



実技



座学

・本日の講習で学んだ事を、日々の業務に役立てていきます。初心に戻り業務に励みたいと思います。

・受講し改めて忘れがちな基本作業の再確認ができました。大変勉強になりました。

入退会情報

入 会 (3 社)

中部支部 令和4年2月 株式会社トランスウェブ 名古屋営業所
中国支部 令和4年2月 株式会社HRS 広島営業所
北信支部 令和4年2月 有限会社トランスポート・サービス

退 会 (2 社)

関東支部 令和4年1月 ヨシアース株式会社
中国支部 令和4年2月 鯉城陸送有限会社

経過・予定

経過報告 今後の予定

1 / 17 正副会長会議兼総務部会	3 / 17 正副会長会議兼総務部会
1 / 17 1 月定例理事会	4 / 19 自動車総連との産業労使会議
2 / 11 関東支部「教育・認定制度」 自走ドライバー教育	4 / 19 正副会長会議兼総務部会
2 / 17 2 月臨時理事会	4 / 19 4 月臨時理事会
2 / 17 (一社) 日本陸送協会 令和3年度通常総会	4 / 26 関東支部総会
	5 / 17 近畿支部総会
	5 / 18 中部支部総会

会員の皆様へ

● 2022年 春の全国交通安全運動について

日本陸送協会は2022年4月1日から4月30日までの一か月間を交通安全強化月間と定め、自動車陸送事業における交通事故防止の徹底を図ることを目的に全国交通安全運動を実施します。

● 日本陸送協会ホームページについて

※新型コロナウイルス関連はホームページの会員用「協会からのお知らせ」に掲載しております。

日本陸送協会のホームページを多くの皆様にご覧して頂く為に、会員様のホームページからもリンク出来ますように、バナーを貼って頂けますようお願い申し上げます。

日本陸送協会ホームページURL

<http://rikusoukyoukai.org/>

日本陸送協会のホームページは毎月一度改定しておりますので閲覧下さい。
会員専用ページ閲覧には下記のID・パスワードが必要です

ID : 2016rikusou

PW : kyoukai

